

医師不足

【質問】近所の病院の小児科が閉鎖になり困っています。小児科のお医者さんが少なくなっているためだそうですが、本当でしょうか。
(35歳・主婦)

医療制度
Q & A

医学部の定員減響く

【回答】医師不足の報道が目につきますが、確かに勤務医不足は深刻です。厚生労働省は二〇〇〇年を境に医師過剰になると予測し、医学部の定員を削減しました。しかし、産科医や小児科医の不足に代表される偏在だけでなく、今や絶対数も不足しています。

経済協力開発機構(OECD)の調査によると、人

口一千人当たりの医師数は日本二・〇人で、加盟三十三カ国中二十七位と最低レベルです(加盟国平均三・一人)。今日の医師不足は医療費を抑制しようとして、医学部の定員を削減した厚労省の政策の誤りの結果と言えます。

医師不足に拍車を掛けているのが、勤務医の離職です。勤務医はもともと少ない上、医療技術の進歩や患者の高齢化などのために長時間の労働を強いられ、勤務医は疲れ切り、職場を離れていっている者です。

医師国家試験合格者の三割を占める女性医師が出産・子育てのため職場を離れたり、医療訴訟の多発により勤務医の意欲が低下したりするのも勤務医不足の要因となっています。ある調査によると、勤務

医の一週間の平均労働時間は七〇・六時間という過酷さです。世界的にみて、一病院当たりの医師以外の医療従事者数も日本は極端に

離職防ぐ対策も必要

予定ですが、その効果は限定的と思われる。中・長期的には、地元学生の入学者枠を設けながら、医学部の定員を増やすべきです。厚労省は定員削減の方針を改める時期に來ています。

離職した女性医師の復帰は医師不足対策の切り札となるかもしれません。そのため、保育所の設置やワークシェアリングの採用、復帰前の研修などの環境づくりが大切です。

医療技術の進歩などで、医師の需要は今後ますます高まります。政府は医師不足を解消するのに十分な財源を用意してほしいと思います。

(県医師会)